

「支援の見直し」が 問われる転換期 育成就労制度と 特定技能のこれから



Message

JAC 理事長
三野輪 賢二
Kenji Minowa

外国人材と企業へ"確実"に 支援が届く仕組みづくり

育成就労制度の運用開始が迫り、外国人材の受入れはいよいよ新たな局面へ。制度が変わるだけでなく、これまでの支援のあり方そのものが問い直されています。現場で何が起きているのか、日本語教育やキャリア支援の課題も含め、三野輪理事長に伺いました。

— 育成就労制度と特定技能制度の
一体的な運用が始まりますが、JAC
として今年度の課題をどのように捉え
ていますか？

支援が本当に必要な特定技能外国人
のもとへ、確実に届く仕組みに作り直し
ていく。それが今年度の一番大事な課題
です。

日本語力の差は、指示の聞き違いや作業
ミスといった安全上の問題にもつながり
かねないにもかかわらず、現場では同じよう

に働くことが当たり前になっています。特定
技能と育成就労では求められる日本語
力が違うことを踏まえ、本人と受入企業
の両方に、日本語教育についての情報を
しっかり届けることが急がれます。

制度の全体像がはっきりしてきたのは
ごく最近のことで、対応すべき課題は少な
くありません。それでも今年度は、日本語
教育も含めた支援の土台をしっかり固め
直し、どの外国人材にも公平に支援が行き
渡る仕組みを着実に実現していきます。

— 受入企業に対しての支援は、どの
ように考えていますか？

日本語の問題は、現場の安全や仕事の

正確さに直接影響します。育成就労制度が
始まると、日本語レベルの違う人材が同じ
現場で働く場面がさらに増えます。だから
こそJACとしても、企業のみなさんと一緒
にこの課題に向き合っていきたいと考えて
います。

「日常会話はできるのに、現場の細かい
指示がうまく伝わらない」という声はよく
聞かれます。紙に書かれた作業指示を正しく
読み取れないケースもあり、話す力だけ
でなく、読み書きの力も育てることが欠か
せません。そのためJACでは、日常会話の
習得にとどまらず、現場の指示や安全管理
に関わる内容をきちんと理解できる、実際
の仕事に役立つ日本語力の育成を大切に
しています。オンラインやe-Learningなど、
働きながら学べる環境も整えています。

安全衛生教育や技能講習についても、
受けられる機会を用意するだけでは足り
ません。学んだ内容がきちんと伝わるよう、
母国語での対応を広げています。こうした
取組みが積み重なることで、外国人材が
不安なく働け、受入企業も安心して仕事を
任せられる職場がつけられていくと信じて
います。

— キャリアアップ支援についてはいか
がですか？

特定技能2号への移行は、本人にとつ
ても受入企業にとつても、共通の目標となる
はずで。資格を取り、在留資格を得て、
日本で長く働き続けてもらうこと。その歩
みを支えることが、私たちの大切な仕事だと
感じています。

JACの教育プログラムは、もともと2号
移行を見すえて組み立てたものです。特別
教育や技能講習にも力を入れており、受講
した方々からは「わかりやすい」と好評を
いただいています。母国語による職長・
安全衛生責任者教育の令和9年度内の
実施に向けた準備にも取り組んでいます。
試験については、ルビを振ったり、出題範囲
を整理したりと、受験しやすい工夫を重ね
てきた結果、2号資格試験の合格率も着実
に上がってきました。

当初は合格率が低く、多くの方にご苦労
をおかけした時期もありましたが、みなさま



のご協力もあって着実に改善が進んでい
ます。引き続き、一人でも多くの方が2号
移行を果たせるよう、支援の充実に取り
組んでまいります。

働き先として 選ばれ続ける国へ

— 共生社会の実現に向けて、JAC
としてのお考えをお聞かせください

ここ数年、外国人に関する問題は建設業
に限らず、社会のあちこちで取り上げら
れるようになりました。外国人材の受け
入れに関わってきた立場として、私たちは
その現実としっかり向き合い、「共生」を
大切な理念として掲げ、それを現場でしっ
かり実現していけるよう、取組みをさら
に充実させていきたいと考えています。

生活面での支援として、とりわけ力を
入れているのが医療の分野です。言葉の
壁のせいで病院に行けなかったり、症状
をうまく説明できずに適切な治療を受け
られなかったりする。そんな困りごとが実際
に起きています。医療通訳を含む支援の
仕組みをつくったのは、そうした問題を少し
でも減らすためです。特定技能外国人に

とっても受入企業にとつても、「いざとい
う時に頼れる」という安心感は、働き続け
るうえで大きな支えになります。

— 最後に、受入企業へのメッセージ
をお願いします

世界中が外国人材を求めて動くなか、
「日本が選ばれ続けること」は、建設業に
とってもJACにとつても、避けて通れない
課題です。JACとしてできる支援は精いつ
ぱい続けますが、それだけでは十分では
ありません。毎日の現場で外国人材に一番
近いのは、受入企業のみなさんです。JAC
の支援と企業の関わりが両方そろって初め
て、外国人材が本当の意味で安心して働け
る環境が生まれます。JACと企業のみな
さんがそれぞれの強みを生かし、一緒に
支えていく。その積み重ねこそが、外国
人材との信頼関係を育む一番の近道だと
信じています。

JACとしても、みなさまとともに歩み
ながら、特定技能外国人が安心して働き、
生活できる環境づくりを進めてまいります。
引き続き、ご理解とご協力をお願い申し
上げます。

聞き手: JAC編集部 2026年3月24日取材